

彼は平仮名を一文字一文字、たどたどしくしか読めないのが1年生にも馬鹿にされ、勉強する気を無くしていました。が、私の使っているワープロに興味を示したので、平仮名での入力と漢字変換の方法を教えました。すると、彼は好きな野球チームの監督やコーチや選手の名前・背番号・守備などを覚えていて、すぐ入力し始めました。驚いたのは、選手の漢字のフルネームを画像として記憶しているらしく、沢山ある変換候補から「これ」と的確に選択できるのです。後で選手名鑑を買って確かめたら、正確でした。彼は、貯めていた小遣いで自分のワープロを買い、使いこなして行きました。その頃は、パソコンやワープロが一般に出回り始めたばかりだったので、クラスの友達に尊敬され、母親や担任の手書き原稿をワープロで清書して重宝がられていました。その力で自信を持ち、中学校・高校と進み、現在は社会人の一員になりしっかり生活しています。

このことから、その後の子どもたちへの指導や相談では、この子はどんな力を秘めているのか、何を使ってその力を発揮させられるのかと考えるようになりました。

障害を持つ人の中にも、様々な分野でたくいまれな才能を持ち、社会で活躍している人もいます。思いがけない才能を見いだされた有名人のひとり、千葉県出身の山下清さんですね。映画にもなりましたが、彼の貼り絵のすばらしさは皆さんもご存じでしょう。

この切り絵は「平成の山下清」と呼ばれる、自閉症の上田豊治さんの作品です。彼は3780gで生まれ、健康診断も順調でどんどん大きくなり健康優良児、しかも一日中、とてもおとなしく、手がかからない子だったそうです。一歳を過ぎた頃、言葉が遅いのが気になっていましたが、テレビのコマーシャルが出ると、お気に入りの厚い職業用の電話帳をぱっと広げ、すぐおなじものを見つけ出すので、頭のいい子だと喜んでいました。

そのうち、夜寝ないのに昼間は一日中外へ飛び出し走り回る、同じものしか食べない、言葉がないので、自分の意思が通じない時のパニックがひどい等、家族を悩ませました。

母親の幸子さんは、夜中に泣きわめく子を背負って浜辺に行き、一緒に泣き、このまま海に入ろうを幾度思ったかと、後で本に記しています。

「自閉症」は今では生まれつきの脳の機能障害である事が知られるようになりましたが、ごく最近まで（時には今でも）「母親の育て方が悪い」と母親が責められ、自責の念で落ち込んで病気になったり、離婚させられたりすることが多かったそうです。

母親の幸子さんは、昭和40年代にやっと取り上げられるようになった新聞記事を読んで、豊治さんが「自閉症」である可能性に気づいたそうです。3歳児検診の時専門の先生を紹介してもらい、「自閉的傾向のある子」と診断されました。通園施設でも、他の子や先生と馴染まないのが母親が毎日付き添うなど苦労されたそうです。この頃からやっと保護者の会ができ、幼児のための療育も手さぐりで始まったばかりでした。

豊治さんが3歳の時、小さな交通信号のついた紙から30この信号を切り抜き、割り箸に貼り付けて遊んでいるのを見てみんなびっくりしたそうです。それは、切り抜かれた元の紙が一枚の紙のままつながっていたからです。カッターではなく、にぎりばさみで切ったのです。通りかかった人が「これは、すごい。これから先、ずーっとつながってゆきますよ。」と言ってくださり、それが本当に十数年先、豊治さんの生きていく道につながったのです。几帳面でこだわる、自閉症の特質が良い方に向いたとき、それが切り絵となって生かされた時、それは個性として花開いたのではないのでしょうか。自閉症だからできたと思います。（後編は次号に掲載します）



国際ロータリー第2790地区第12分区

松戸北ロータリークラブ



四つのテスト

言行はこれに照らしてから

- 1・真実かどうか
- 2・みんなに公平か
- 3・好意と友情を深めるか
- 4・みんなのためになるかどうか

第1978回 例会 2013年8月20日(火)

- 国際ロータリー会長 ロンD. パートン
- 第2790地区ガバナー 関口 徳雄
- 第12分区ガバナー補佐 渡辺 敏弘
- 松戸北ロータリークラブ会長 児山 守治
- 松戸北ロータリークラブ幹事 平田 洋一
- 例会日 - 毎週火曜日12:30より (第1例会18:30)
- 例会場 - 松戸市八ヶ崎1-10-6 「びわ亭」
- 事務所 - 松戸市八ヶ崎1-11-13 サンライズハイツ101
- TEL/FAX- 047-711-5950 / 047-711-5910
- Web/Mail- www.rc2790-12.jp / kanji@rc2790-12.jp

WEEKLY REPORT

<第1978回:例会プログラム>

12:30	点鐘	児山守治会長
	ロータリーソング斉唱【♪我等の生業】	
12:33	お客様紹介	崎谷延好会長エレクト
12:35	会食	
12:55	例会再開 会長挨拶・報告	児山守治会長
13:00	幹事報告	平田洋一幹事
13:05	卓話 「特別支援」を必要とする子供たちについて	福士恭子様
13:25	【委員会報告】 社会奉仕委員会 社会奉仕基金発表 ニコニコ委員会 ニコニコ発表	齋藤和實委員 小林弘委員長
13:30	点鐘	児山守治会長



<会長挨拶：児山守治会長>

こんにちは。皆さんお盆休みは如何お過ごしでしたでしょうか? 元気な様子を目の当たりにし安堵しております。まだ暑さが続きます。どうぞお身体ご自愛いただきたいと思ひます。



さて、1920年(大正9年)今から93年前、日本で初めて東京ロータリークラブが誕生しました。

1920年と言えば関東大震災が大正12年ですからその3年前です。また箱根駅伝の第1回大会が始まった年です。今ではお正月の風物詩として定着しましたが93年前の参加校は早稲田 慶応 明治 東京高師(現筑波大)のたった4校だったそうです。また日本は初の国勢調査が実施されました。東京の人口は369万人だったそうです。以後戦中戦後を経て現在に至っています。

当クラブは創立から41年目となっています。歴史は積み重ねられて行きます。今週は卓話者に女性が初登場いたします。どうぞご期待いただきたいと思ひます。これにて会長挨拶といたします。

<幹事報告：平田洋一幹事>

習志野ロータリークラブが本年11月には、創立50周年を迎えられるそうです。おめでとうございます。

記念式典が11月29日 ホテルニューオオタニ幕張で行われます。



■ロータリーの奉仕哲学「超我の奉仕」Service above self■

このServiceの意味は人のためにつくすこと。ビジネスでもServiceの心がけはシェルドンの言葉を借りれば「永続的な顧客を得る道」であり、信用を増して繁栄への道につながる。

WEEKLY REPORT

<卓話:福士恭子様>

「特別支援」を必要とする子供たちについて (前編)



私は以前、松戸市でことばの教室の担任をしていた福士恭子と申します。ここ、小金原や新松戸・小金地区の小学校に勤務していたこともあります。今回、ロータリークラブの皆さまの前で特別支援を必要とする子どもたちについてお話する機会をいただきましたことを大変うれしく思っております。

先日児山会長から社会奉仕活動のひとつとして、毎年なかよし学級の子どもたちを芋ほりに招待していると伺いました。なかよし学級の担任をしている先生達からロータリークラブの芋ほりは、事前の準備から全て、至れり尽くせりで、こんなにして頂いていいのかと思うほどだと聞いていました。また、子どもたちは直接土に触れ、自分たちの力で芋を掘り出し、みんなで協力して重い芋を運ぶ体験に目をキラキラさせて、感動していたそうです。さらに、その芋ほりの様子を絵に描くという、貴重な体験学習の場でもあったと聞いています。

新松戸北小学校で、毎年秋になると学校の隅々まで、焼き芋のいい匂いを漂わせて「収穫祭」を行い、保護者も職員も一緒に参加する形で。交流の場として発展させていた情景が思い出されます。

ところで、皆さんが芋ほりの場で出会った子どもたちは皆、甘えたり話しかけてきたりして、とても可愛らしかったと思ひます。なぜか自分を受け入れてもらえると感じると、警戒心もなく心を開いてくれる子どもたちです。ただ、そのうちの数人は目を合わせることもなく、話しかけても答えなかったり、一方的に話すだけで会話にならない子もいたりして、戸惑った経験もあったのではないのでしょうか?

そこで今日は、なかよし学級にいる子どもたちのことを理解して頂くとともに、その子どもたちを私たちが、大切にしなければいけない理由についてお話します。

なかよし学級の子どもたちは、知的能力の発達がゆっくりしています。そのため40人の児童を一人の先生が指導するという、一般的な学級で学ぶスピードにはついていけません。そこで、少人数で、一人ひとりの理解力に合わせて学習が進められるように、特別な教室が用意されています。それが「なかよし学級」です。

私が教員になった昭和40年は、普通の学校には今の「なかよし学級」のような特別な場はほとんどありませんでした。ですから、重い知的な遅れのある子も、同じクラスの一員としてがんばっていました。

昭和40年、日本全国一斉に、様々な障害を持つ子はどれくらいの人数がいるのかという大調査がありました。この時、全児童・生徒数の4%が特殊教育を必要とするという数値が出ました。それを基に全国小・中学校に「特殊学級」が設置されました。また、それまで学校に通うことが難しかった、重度の知的障害や肢体不自由、弱視や難聴、病弱の子どもたちの為の学校も増やされました。

千葉県は全国にさがかけて、特殊教育を推進してきた県として有名です。松戸市も乳幼児のための療育施設や小・中学校に多くの種類の特別支援学級を設置しており、就学指導委員会も充実しているので、他県・他市の保護者や担当教師からうらやましがられる存在です。

「障害児教育」の考え方は最近大きく変わり、名前も「特別支援教育」となりました。これまで主流だった知的障害を始めとする先ほど述べた障害の他に、①広汎性発達障害(自閉症) ②学習障害(LD) ③注意欠陥多動性障害(ADHD) 特別支援教育の対象として考えられるようになったのです。そのため、「特別支援教育」の対象となる子どもは全体の6%と考えられています。

これらの障害は「知的障害」を併せ持っていることもありますし、普通の学級の子どもの中にも、時には知能指数の非常に高い優秀児の中にも存在します。

これらの障害を持つ子の場合、高い能力を持っていたとしても、人と係わろうとしなかったり、言葉がうまく話せなかったりして、その能力を表現する方法が無く、周りにいる人達も気づかずにいることがあります。その子自身もまた、自分の気持ちや考えをうまく周りに人達に伝えられず、常にストレスを抱えています。また、年下の子から馬鹿にされて自信を失い、やる気を無くしてしまっている子もいるのです。

私は、転校して来た小学5年男児の隠されていた能力に驚かされたことがあります。(次ページ)